

「消化器」コースユニット2・3 試験問題

2022年7月1日

1. 咬合の不正を生じる骨折はどれか。すべて選べ。
 - (a) 下顎骨体部骨折
 - (b) 下顎骨関節突起骨折
 - (c) 下顎骨筋突起骨折
 - (d) 頬骨弓骨折
 - (e) Le Fort I 型骨折
2. 顎骨の急性骨髄炎でみられないのはどれか。2つ選べ。
 - (a) 白血球数の増加
 - (b) 核の右方移動
 - (c) グロブリン量の減少
 - (d) 桿状核球数の増加
 - (e) CRP 値の上昇
3. 歯性上顎洞炎について誤っているものはどれか。2つ選べ。
 - (a) う歯や歯周炎が原因で生じる
 - (b) 上顎洞の X 線透過性が亢進する
 - (c) 片側の顎洞に発症することが多い
 - (d) 歯科用インプラントが原因で起こることがある
 - (e) 上顎前歯が原因歯となることが多い
4. 舌扁平上皮癌で転移が多いのはどれか。2つ選べ。
 - (a) 頰部リンパ節
 - (b) 後頭リンパ節
 - (c) 顎下リンパ節
 - (d) 耳介後リンパ節
 - (e) 上内深頸リンパ節
5. 前がん病変はどれか。2つ選べ。
 - (a) 色素性乾皮症
 - (b) 梅毒性舌炎
 - (c) 白板症
 - (d) 紅板症
 - (e) 口腔扁平苔癬
6. 関係のある組み合わせはどれか。3つ選べ。

(a) 乳頭腫	ー パピローマウイルス
(b) 口腔扁平苔癬	ー 帯状疱疹ウイルス
(c) Koplik 斑	ー ヘルペスウイルス
(d) Fordyce 顆粒	ー 異所性皮脂腺
(e) 黒毛舌	ー 長期抗菌薬使用
7. 唾石症について正しいのはどれか。2つ選べ。
 - (a) エックス線不透過性のものが多い
 - (b) 両側性に発症することが多い
 - (c) シェーグレン症候群に合併しやすい
 - (d) 舌下腺に好発する

- (e) 摂食時に疼痛が増強する

8. 摂食・嚥下の一連の動作のうち誤っているものはどれか。

- (a) 認知期
- (b) 口腔期
- (c) 咽頭期
- (d) 喉頭期
- (e) 食道期

9. 唾液腺腫瘍について誤っているものを選べ。

- (a) 多型腺腫は両側性に発生しやすい
- (b) ワルチン腫瘍は下極に発生しやすい
- (c) 最も多いのが耳下腺腫瘍である
- (d) 舌下腺腫瘍は悪性が多い
- (e) 悪性の場合顔面神経麻痺を生じることがある

10. 次のうち誤っているものを2つ選べ。

- (a) 咽頭には、リンパ組織が輪状に存在し、Waldeyer 咽頭輪を形成する
- (b) 咽頭の運動・感覚は、舌咽神経・迷走神経支配である
- (c) 口蓋扁桃は上咽頭に存在する
- (d) 口蓋扁桃、アデノイド（咽頭扁桃）は年齢とともに増大、縮小する
- (e) 嚥下障害の治療として喉頭挙上術を行うと、発声機能が失われる

11. 消化管ホルモンはどれか。

- (a) leptin
- (b) incretin
- (c) prolactin
- (d) adiponectin
- (e) erythropoietin

12. 胃全摘後に欠乏しやすい栄養素を2つ選べ。

- (a) 鉄
- (b) 銅
- (c) 葉酸
- (d) ビタミン B6
- (e) ビタミン B12

13. PIVKA-II が高値となりうる疾患・病態を2つ選べ。

- (a) 肝細胞癌
- (b) Lewis 抗原陽性
- (c) ビタミン B12 欠乏
- (d) ワーファリン内服中
- (e) ビタミン K 製剤内服中

14. Courvoisier 徴候を示すのはどれか。

- (a) 胆嚢癌
- (b) 膵尾部癌
- (c) 下部胆管癌
- (d) 肝内胆管癌
- (e) 肝門部胆管癌

15. 組合せで誤っているのはどれか。

- (a) VIPoma — 高カリウム血症
- (b) インスリノーマ — 低血糖
- (c) ガストリノーマ — 消化性潰瘍
- (d) グルカゴノーマ — 壊死性遊走性紅斑
- (e) ソマトスタチノーマ — 胆石

16. スクリーニングについて誤っているのはどれか。

- (a) 偽陰性が少ないほど有用である
- (b) 感度を高くすると特異度は低くなる
- (c) カットオフ値はROC曲線で決める
- (d) 陽性尤度比が大きいことが望ましい
- (e) 検査前確率が低いと偽陽性が少なくなる

17. 水分の吸収量が最も多い部位はどれか。

- (a) 胃
- (b) 小腸
- (c) 右半結腸
- (d) 左半結腸
- (e) 直腸

18. 食道に関して誤っているのはどれか。

- (a) 食道は気管の背側を走行している
- (b) 食道入口部は生理的狭窄部位の一つである
- (c) 食道は漿膜を欠くため最外層は外膜である
- (d) 大動脈と右主気管支により食道は生理的に狭窄する
- (e) 食道の固有筋層は内輪筋と外縦筋により構成されている

19. 食道癌に関する記載で誤っているのはどれか。

- (a) 飲酒・喫煙は食道癌のリスク因子である
- (b) 食道癌の領域はルゴール染色で染色される
- (c) アジアにおいては扁平上皮癌の方が腺癌より多い
- (d) リンパ節郭清における3領域郭清とは、頸部・胸部・腹部領域を指す
- (e) 上縦郭リンパ節転移や頸部リンパ節転移は嚥声の症状を伴うことがある

20. 食道疾患に関する記載で誤っているのはどれか。

- (a) 食道穿孔は縦郭炎や敗血症につながる
- (b) Boerhaave 症候群は下部食道左側に多い
- (c) Barrett 上皮は食道扁平上皮癌の発生母地となる
- (d) 食道アカラシアは、下部食道括約筋帯の弛緩不全が特徴である
- (e) 食道裂孔ヘルニアを伴う胃食道逆流症に対する手術に噴門形成術（Nissen 手術）がある

21. 胃癌について正しいのはどれか。2つ選べ。

- (a) 腹腔洗浄細胞診陽性（CY1）は、遠隔転移として扱う
- (b) 2型腫瘍は、潰瘍を形成し周囲粘膜との境界が不明瞭な周堤を形成する
- (c) 左鎖骨上リンパ節転移をVirchow転移、卵巣への転移をSchnitzler転移と呼ぶ
- (d) 壁深達度T2とは、癌の浸潤が固有筋層を超えて漿膜下層組織にとどまるものである
- (e) 早期胃癌とは、リンパ節転移の有無を問わず、深達度が粘膜および粘膜下層にとどまるものである

22. 胃癌治療について正しいのはどれか。2つ選べ。
- (a) 胃癌に対する減量手術は、延命効果が認められている
 - (b) Billroth I 法は、胃十二指腸吻合による再建方法である
 - (c) 幽門側胃切除術後の再建方法として、double tract 法がある
 - (d) 切除が困難な場合や危険な場合には、胃空腸吻合術などバイパス手術が行われる
 - (e) ESD は胃粘膜病変に鋼線のスネアをかけ、高周波により焼灼切除する方法である
23. 肝の解剖・生理について正しいのはどれか。
- (a) 右葉と左葉の容量比は1:1である
 - (b) 全肝血流量の70%が肝動脈から供給される
 - (c) 肝前区域と後区域の境界を右肝静脈が走行する
 - (d) 肝グリソン鞘には胆管、門脈、肝静脈が含まれる
 - (e) 臨床における右葉と左葉の境界は肝鎌状間膜である
24. 肝細胞癌につき正しいのはどれか。2つ選べ。
- (a) 腫瘍マーカーは α -fetoprotein が上昇する
 - (b) 5cm 大単発肝細胞癌は肝切除の適応である
 - (c) C 型肝炎に起因する肝細胞癌は増加傾向である
 - (d) EOB-MRI 肝細胞相で病変部は高信号を呈する
 - (e) ダイナミック造影 CT ではリング状濃染が特徴である
25. 次の文章のうち誤っているのはどれか。
- (a) 腸重積は6ヶ月〜3歳に多く、成人では悪性腫瘍などの原因病変を伴うことが多い
 - (b) Closed loop が形成されている腸閉塞は手術などの適切な処置を行わないと致死的である
 - (c) 中腸回転異常では180° 回転型が最も頻度が高い
 - (d) Hirschsprung 病は壁内神経節細胞の欠如が原因で、腹部膨満や腸閉塞をきたす
 - (e) 急性虫垂炎の痛みは心窩部、上腹部の鈍痛から徐々に増強しながら右下腹部痛に移行する
26. 次のうち内ヘルニアはどれか。2つ選べ。
- (a) 閉鎖孔ヘルニア
 - (b) 大網裂孔ヘルニア
 - (c) 腹壁癒痕ヘルニア
 - (d) Winslow 孔(網嚢孔)ヘルニア
 - (e) 内鼠径ヘルニア
27. 根治的放射線治療の適応となり得るのはどれか。2つ選べ。
- (a) 骨転移を伴う肝臓がん
 - (b) 縦隔リンパ節転移を伴う胸部食道がん
 - (c) 肝転移を伴う直腸がん
 - (d) 鎖骨上窩リンパ節転移を伴う胃がん
 - (e) 骨盤内リンパ節転移を伴う肛門がん
28. 緩和的放射線治療の適応とならないのはどれか。
- (a) 肝臓がん脳転移による片麻痺
 - (b) 食道がん多発胸膜播種による呼吸困難
 - (c) 肛門がん腰椎転移による下肢麻痺
 - (d) 直腸がん仙骨転移による疼痛
 - (e) 胃がん原発巣からの出血

29. 食道の腫瘍性病変で、正しいものはどれか。
- (a) 糖原性棘細胞症は悪性腫瘍である
 - (b) バレット上皮は、扁平上皮癌の発生母地となる
 - (c) 異形成という病理組織学的分類は無い
 - (d) 日本人には扁平上皮癌よりも腺癌が多い
 - (e) 角化の有無により、分化度(低分化、中分化、高分化)に分類される
30. 胃の悪性腫瘍について誤っているものはどれか。
- (a) 印環細胞癌では、PAS 染色陽性粘液の細胞質内貯留が特徴の一つである
 - (b) 早期胃癌の定義は、「癌の浸潤が粘膜内か粘膜下層にとどまるものでリンパ節転移の有無は問わない」である
 - (c) 胃腺腫には、胃型と腸型がある
 - (d) GIST(Gastrointestinal stromal tumor)の大部分は c-kit 陰性である
 - (e) 胃生検で、癌は Group 5 である
31. Crohn 病と潰瘍性大腸炎について、正しいものはどれか。
- (a) 潰瘍性大腸炎は、スキップ病変と呼ばれる非連続性の炎症が特徴である
 - (b) 大腸全摘術が適応になるのは、Crohn 病に多い
 - (c) Crohn 病は乾酪壊死を伴う類上皮肉芽腫が特徴的である
 - (d) 潰瘍性大腸炎の活動期には陰窩膿瘍が見られることが多い
 - (e) Crohn 病と比較して、潰瘍性大腸炎の方が癌化しにくい
32. 大腸腫瘍について誤っているものはどれか。
- (a) 大腸カルチノイド腫瘍では、クロモグラニン、シナプトフィジンともに陰性となる
 - (b) Cronkhite-Canada 症候群は、過誤腫の像を呈するポリープが多発する
 - (c) SSA/P (sessile serrated adenoma/polyp)は右側結腸に多くみられる
 - (d) Lynch Syndrome (リンチ症候群)では、ミスマッチ修復遺伝子の変異がみられる
 - (e) 大腸で多い悪性リンパ腫は、B 細胞系である
33. 次の中から正しいものを選び。
- (a) 潰瘍性大腸炎は大腸に局限する非連続性の全層性炎症が特徴である
 - (b) Crohn 病は潰瘍性大腸炎に比べて高齢発症も多くみられる
 - (c) ステロイドは IBD 治療において強力な寛解導入効果を有するが、寛解維持の効果はない
 - (d) Crohn 病では長期罹患による大腸がんが問題となる
 - (e) 潰瘍性大腸炎の腸管合併症として痔瘻が最も多い
34. 次の中から正しいものを選び。
- (a) 大腸がんは現在男女通じて年間の死亡者数が最も多い癌腫である
 - (b) Stage IV の大腸がんは Stage IV の胃癌より予後が悪い
 - (c) Peutz-Jeghers 症候群は常染色体劣性遺伝の過誤腫性ポリポーシスである
 - (d) Cronkhite-Canada 症候群は非遺伝性の腺腫性ポリポーシスである
 - (e) Lynch 症候群では子宮内膜癌の合併が最も多い
35. 胃癌について正しいのはどれか。2つ選べ。
- (a) 早期胃癌とは、癌腫が粘膜下層までにとどまるものであり、リンパ節転移の有無は問わない
 - (b) 大きさ 50 mm の II c 肉眼的粘膜内癌 分化型癌 UL1 と判断される病変は ESD の絶対適応病変である
 - (c) 内視鏡的に腫瘍が一括切除され、病変が 2 cm の分化型癌で pT1b(SM1)であり、かつ HMO, VM0, Ly0, V0 であった場合は、内視鏡的根治度 C-2 (eCuraC-2)とし、追加外科手術が標準

となる

(d) StageIV手術不能進行再発胃癌に対して化学療法を施行すると生存期間中央値は5年程度である

(e) 早期胃癌に対して標準的な加療が行われれば5年生存率は90%以上である

36. 胃疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

(a) 胃に発生する悪性リンパ腫の中で、頻度が高い組織型は胃 MALT (Mucosa-associated lymphoid tissue) と DLBCL (Diffuse large B-cell lymphoma) である

(b) 現在20代の *H. pylori* 感染率は40%程度である

(c) 手術不能な GIST (Gastrointestinal Stromal Tumor) の治療として、ニボルマブが有用である

(d) *H. pylori* は主に10代に感染する

(e) 胃癌の中で *H. pylori* 未感染の胃癌の割合は1%程度である

37. 食道疾患に関する次の記述のうち正しいものを3つ選べ。

(a) 食道癌の危険因子として飲酒、喫煙があげられる

(b) 早期食道癌は、原発巣の壁深達度が粘膜内にとどまり、リンパ節転移の有無は問わない

(c) 食道アカラシアの診断には、食道内圧検査が有用である

(d) 胸部中部食道 (Mt) は漿膜に覆われている

(e) 特発性食道破裂は、食道上部に好発する

38. 次のうち蛋白漏出性胃腸症をきたさないものはどれか。

(a) Crohn 病

(b) 腸リンパ管拡張症

(c) 過敏性腸症候群

(d) 収縮性心外膜炎

(e) 非特異性多発性小腸潰瘍症

39. Crohn 病について誤っているものはどれか。

(a) 縦走潰瘍や敷石像がみられる

(b) 口腔～肛門までのあらゆる消化管に炎症をきたすことがある

(c) 女性に多い

(d) 腹痛、下痢、発熱、体重減少などがみられる

(e) 消化管は全層性に障害される

消化器検査コース(1,2)について

1：出席について

口腔外科学では、感想を書かせる方式での出席が取られました。

第1内科が担当する講義では、8割方の授業で秘書さんが座っている席をチェックするという方式で出席を取っておりました。

2：消化器検査コースのグループ発表統括、アクティブラーニングについて

口腔外科学のアクティブラーニングは、口腔がんに関するいくつかのテーマについて、グループ別に討論しグループで一つのレポートを提出するように要求されました(その週の金曜日まで)。

口腔外科学担当のコアタイムでは、歯性感染の症例と骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の症例について扱いました。発表と解説は、休講となりました。口腔外科学ではコアタイムのレポートの扱い方がいいかげんなのか、レポートを提出した者が何名も未提出者として掲示板に張り出されるということが起こりました。

消化器2のアクティブラーニングでは授業で当てていく方式で答えさせられましたが、難しい問題等はほとんど無く、その場で考えて口頭で答えればよいというものでした。レポート等はありませんでした。

消化器2のコアタイムでは、大腸癌についての症例を取り扱いました。

消化器2の発表と解説の時間では、コアタイムで扱った症例についての解説講義が実施されました。

消化器3のアクティブラーニングでは、B型肝炎についての症例について扱いました。部活を中心としたグループ分けが行われ、そこで議論をするという形式で行われました。レポート等はありませんでした。

消化器3のコアタイムでは、NASHについての症例を扱いました。

3：消化器検査コース(1,2)の合否情報など

本試の実施日は2022年7月1日、発表は消化器コース(3,4,5)と併せて2022年8月24日でした。

再試対象者は6名。

再試の日程は学生と相談のうえ決定され、2022年11月29日となりました。

再試の問題は本試と同じでした(ただし、順番は異なりました)。

4：その他、試験情報など

消化器検査コース前半の試験終了直後に、試験問題の解答が口頭で発表されました。もっとも、ボツ問などがあるため、これによる自己採点の結果が必ずしも試験の点数と一致しないそうです。

消化器検査コース前半の試験してから1週間ほどしてから、合格が危ぶまれる者に対して学務から警告が発せられたそうです。もっとも、これは点数を基準に連絡が来たわけではなく、どうやら出席数が少ない者に対して連絡がいった模様です。

5 : 試験直後に口頭で発表された正解

1	abe
2	bc
3	be
4	ce
5	cd
6	ade
7	ae
8	d
9	a
10	ce
11	b
12	ae
13	ad
14	c
15	a
16	e
17	b
18	d
19	b
20	c
21	ae
22	bd
23	c
24	ab
25	c
26	bd
27	be
28	b
29	e
30	d
31	d
32	a
33	c
34	e
35	ae
36	ae
37	abc
38	c
39	c